

国営昭和記念公園基本計画

平成13年4月

国土交通省関東地方整備局

公園計画の前提	-----	1
. 公園の理念	-----	2
. 基本方針	-----	2
- 1 . ゾーニング	-----	3
- 2 . 動線計画	-----	4
(1) 公園入口		
(2) 動線網		
- 3 . 施設計画	-----	5
(1) 施設配置計画		
(2) 施設整備水準		
- 4 . 植栽計画	-----	6
- 5 管理計画	-----	7
(1) 基本方針		
(2) 維持管理		
(3) 運営管理		
基本計画図	-----	8

公園計画の前提

公園整備の経緯

国営昭和記念公園は、天皇陛下御在位五十年記念事業の一環として閣議決定により整備された。

昭和50年	天皇陛下御在位50周年記念事業の検討 (総理府)
昭和51.11.5	昭和記念公園 (仮称)建設を閣議了承
昭和53.3.16	昭和記念公園 (仮称)基本問題懇談会設置
昭和53年度	基本設計の作成と決定
昭和54.11.30	国営昭和記念公園の設置を閣議決定
昭和56.11.27	都市計画決定

公園の規模 180.1 h a

公園の位置



・公園の理念

天皇陛下御在位50年記念事業の一環として、国は首都近郊に記念公園を建設し、これを永く後世に伝えることとした。この公園は、緑の回復と人間性の向上をテーマに豊かな緑につつまれた広い公共空間と文化的内容を備えたものとし、現在及び将来を担う国民が自然的環境の中で健全な心身を育み、英知を養う場とするものとする。

・基本方針

- 1 . 基本的事項

- (1) 昭和という時代を象徴するとともに、日本を代表する大規模公園として国際的にも特徴のあるものとする。
- (2) 豊かな緑につつまれ、広く国民が四季を通じて広大な空間を自由に利用し、自然とのふれあいを楽しむことができるものとする。
- (3) 格調の高い文化活動の拠点とし、国民の資質の向上に寄与するものとする。
- (4) 大震災時の緊急避難地としての機能を併せ有するものとする。
- (5) わが国の伝統的造園技術を踏まえるとともに、広く現代の英知と技術を結集したものとする。

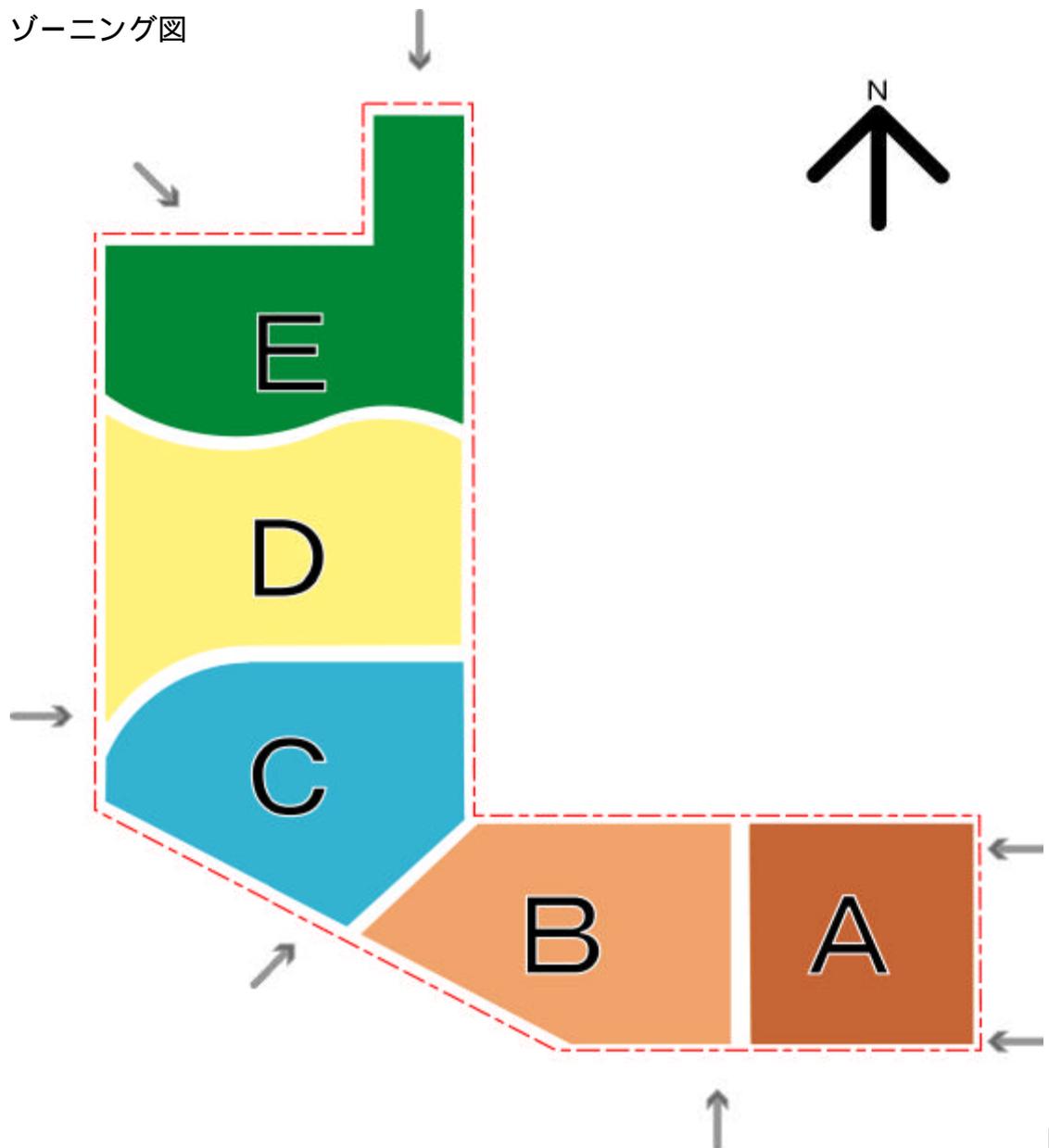
- 2 . 施設に関する事項

- (1) 昭和50年を省みるとともに、新たな時代の発展を記念するにふさわしい記念施設を設置する。
- (2) 豊かな緑と深い樹林地を基調とし、武蔵野の景観を蘇生させるための修景を施すとともに、水を有効に活用する。
- (3) 四季の変化に対応し、豊かな季節感を演出し得る花園を設置するほか、わが国の代表的な花であるサクラ等を活用した花木園、日本庭園等を設置する。
- (4) 広大な空間にわが国並びに世界の文化水準の向上に寄与するため、格調の高い文化活動を可能とする施設を設置する。
- (5) 広場、園路等の施設は、本公園にふさわしい規模等を有するものとし、大震災時における緊急避難地としての機能が十分発揮できるよう配慮する。
- (6) 広く国民の利用に供することに鑑み、徒歩・自転車・鉄道等の交通に対応した各種交通施設の整備を図る。

- 1 . ゾーニング

ゾーン名称		ゾーンの考え方
A	文化施設ゾーン	JR立川駅や多摩都市モノレールにも近く、緑豊かな公園と賑わいの市街地の拠点となるゾーン。
B	展示施設ゾーン	AゾーンとCゾーンを連絡する回廊で、平坦で開けた形をしたゾーン。
C	水のゾーン	市街地の環境にも配慮し、植栽と池を中心としたところで、広々とした水面に親しめるゾーン。
D	広場ゾーン	敷地の中央に位置し、広がりのある空間で、いろいろなレクリエーションが楽しめるゾーン。
E	森のゾーン	敷地の北側につくられる丘と植栽地では、深い森の雰囲気が味わえるゾーン。

ゾーニング図



- 2 . 動線計画

(1) 公園入口

メインゲートは、砂川口、西立川口、立川口の3ヶ所とする。

サブゲートを二ヶ所設ける。

(2) 動線網

園路の種類	有効幅員
管理用通路	5m
サイクリングルート	3m
幹線園路	8m
支線園路	4m

動線計画図



- 3 . 施設計画

(1) 施設配置計画

文化施設ゾーン

イベント広場、展示棟、レストラン、野外ステージ、研修交流棟、体験圃場を設置する。

展示施設ゾーン

立川口広場、であい広場、カナル、ふれあい広場を設置する。

水のゾーン

ボート乗り場、水鳥の池、さざなみ広場、レークサイドレストラン、昭島口広場、駐車場、水遊び広場を設置する。

広場ゾーン

レクリエーションホール、運動広場、みんなの原っぱ、レストハウスを設置する。

森のゾーン

子供の森、日本庭園、ホビーハウス、クラフトハウス、森の家、こもれび広場、管理作業所を設置する。

(2) 施設整備水準

収容力を同時約55,000人とする。

- 4 . 植栽計画

- (1)市街地に接する公園外周部には防災、防風、防塵、防音等の遮蔽植栽を行う
- (2)内部基調植栽のうち各種の植栽群の背景となる準遮断的植栽を設ける。
- (3)道路の曲線の外側、直線の突当たり部、ピスタの突当たり、ピスタのシボリ(芝生広場、池縁他)等景観の焦点となる部分を重視した修景植栽を行う
- (4)植栽景観を構成する上で、ピスタラインを重視した計画とし、樹木の奥深さ、景観ポイントの効果的な表現について考える。
- (5)植栽は大小の群団により樹種を分け、さらに濃淡をつけて配植し、園内に植栽の重点区域を要所に置く。またその区域には特に目標となる大木群において、景観ポイントの強調を行う
- (6)主要な景観を眺める地点には、フレームとなる木を植える。
- (7)園路は林内、林縁、林空通過の感じを強調し、園路を通り人が林の美しい景観変化を見られるような樹林地の配置をする。
- (8)植栽景観が竣工時点でほぼ完成された形となる部分と苗木類を多く使った準完成型の植栽をする部分を設ける。
- (9)園路、広場には緑陰樹を多く植え、日陰の多い広場とする。
- (10)樹種の選定にあたっては、移植に強く、移植後の生長旺盛な樹種を選ぶ。
- (11)既存木は移植して使う。但し、ケヤキ、アカマツの大木は出来るだけその位置に残す。

- 5 . 管理運営計画

(1)基本方針

管理経済性の追求
 公園アメニティの確保
 大レクリエーション空間の演出
 インフォメーションシステムの整備
 基本テーマの確立とその育成・展開

(2)維持管理

公園施設本来の目的機能を維持し、利用者に安全で快適な環境を提供するため、それぞれの施設特性、空間特性を踏まえて適切な維持管理を行う
 植物管理を中心に、建物・工作物や各種装置等の維持管理および周辺環境の清掃などに及ぶ管理業務について、コストの縮減、管理の効率化を進める。
 生態系や生物棲息環境にも配慮した維持管理を行い、地域特性を踏まえた自然の創生を図る。

(3)運営管理

公園の施設及び環境を活かして公園利用者が安全かつ快適に過ごすことのできる運営管理を行なうとともに、利用マナーの向上を目指す。
 敷地の広大さと施設の多様性を十分活用し、大規模公園のモデルとなり国際的な利用にも応える魅力ある演出をおこなう
 ・日本を代表する大規模公園として、また昭和記念公園のテーマ性が訪れるたびに強く感じられるような奥深さと、かつ明るく楽しいイメージをもちあわせた運営を展開していく。
 施設案内やイベント等の総合的なインフォメーションを行い、利便性の向上を図るとともに、利用者が過度に集中したり偏ったりしないよう利用の平準化を図れるような運営管理を行う